いなほ

令和５年１１月１３日
令和５年度学校だより NO.30④
加古川市立平荘小学校

狂言学習を行いました（６年生）≪NO.1≫

【めあて】
●前の人の演技をしっかり見て、**つなぐ**。
●狂言は、喜劇！
　楽しみとウキウキ感を出す。笑顔で楽しく演じる。

１１月７日（火）に、６年生は、３回目の山口先生をお招きした稽古を行いました。１回目よりも２回目、２回目よりも３回目と、どんどん上達することを前提に稽古をしてきましたが、表現力を高めるということにおいて、子どもたちは苦労しています。根気強く努力することが大切です。セリフを暗記するだけでは、観客にメッセージを伝えることはできません。まず、演じ手が、自分の役割をしっかりと把握することが大事です。自分の担当している役は、どんなキャラクター（性格）なのか、自分が演じている場面では、登場人物はどんな状況に置かれているのか、そして、どんなことを思っているのか等、登場人物の心情をしっかりと分析し、それを、ことばとしぐさで表現します。目線や指先の示す方向すら油断できません。細心の注意を払いながら、笑顔で楽しく演技をすることが要求されます。

『猿唄』の稽古

『猿唄』は、お腹を使って力強く謡います。
　集団で謡うと、のびたようになってしまいます。
　そこで、リーダーが大事になります。
『猿唄』のリーダーは、みんなの唄に合わせません。合わさないのがポイントです。
みんなを引っ張らないといけないからです。起動する。エンジンになって、みんなを引っ張っていきます。
　間延びしたなと思ったら、テンポを上げます。

≪『附子』の稽古より≫

●笑顔で、楽しそうに演じる！

最初に発することばは、しっかりとゆっくりと話します。
回る時は、表回りをします。Ｓ字で覚えます。

言われたことを忠実にしているけれども、それを超えて自分の狂言にしてほしい！

太郎冠者と次郎冠者は、煙たい人（主人）がいなくなるので、どこかうきうきしている様子を表現します。笑顔で楽しそうにすることがポイントです。

主人は、自分一人で遊びに行く、うきうきしている様子を表現します。笑顔で、いかに楽しそうにするかが重要です。

笑顔で楽しそうに演じましょう。

自分のことばを、相手に届けようと意識することがポイントです。

●逃げるスピードをあげる！
特に、「そりゃ退け」の一番最初をしっかり言う！
●怖いものから遠ざかっている感じを出すためには、一目散に逃げる！そして、もうここまで来れば大丈夫というところまで、わき目も触れずに逃げる！

次郎冠者の性格からして、ドキドキしている。座る時も、怖い『附子』から目をそらさない。『附子』の様子を伺いながら座る。
●『附子』は、滅却するもので、どんなものかわからない。怖いけれど、見に行きたいと思う太郎冠者の様子を表現する。怖いけれど見に行くのが楽しみ（怖いもの見たさ）な太郎冠者。太郎冠者は、明るい声で話す。

まだ、『附子』が砂糖とはわかっていない。滅却されるほどの大の毒に近づく感じを表現する。狂言は、楽しみやうきうき感がないとおもしろくない。

次郎冠者が太郎冠者を心配して説得しようとしている場面。太郎冠者が、『附子』に興味を示しうきうきする感じを表現する。ジェットコースターの感覚。怖いけれど楽しみたい感覚を表現する。